

クラウド上のデータ共有によるナス若手生産者の主体的な課題解決支援

1 対象

JA 愛知西なす協議会生産技術係 6名

2 背景

産地規模を維持し、経営の安定を図るには、組織として技術のレベルアップを図り、さらなる収量向上をめざす必要がある。ナス若手組織において、クラウド上で運用されているスプレッドシート^(※)を活用して栽培データの試行が令和3年度から始められた。

※スプレッドシートとは、クラウド上の表計算ソフトで、Excel 同様にデータの入力や自動計算、グラフの作成などがクラウド上で行うことができる。

3 活動の内容

(1) スプレッドシートの試行

クラウド上で運用されているスプレッドシートを活用して、生育データに各種機器の設定状況を入力することで、これらの情報をリアルタイムで共有でき、迅速な情報共有・草勢診断や個々の課題発見につながる仕組み作りを支援した。(スプレッドシートはスマートフォンやタブレットでも見ることができ、現場でも利用できる)

(2) 問題点や原因の明確化及び目標の設定支援

令和4年度は、前作の収量データ、スプレッドシートに入力された生育データ・各種機器の設定状況及びアグリログの施設内環境データを振り返り、前作の反省点を踏まえた各々の問題や原因を聞き出して整理した。

整理した問題から、個々の課題を明確化し、個別目標を設定した。これをもとに、目標達成のための解決策についての検討を支援した。各生産者から、コーチング手法により、自ら考えた解決策を聞き取るとともに、他の生産者からも意見を聞き取ることで生産者自らが課題解決を考える力へとつながった。

(3) 課題解決に向けた取組み支援

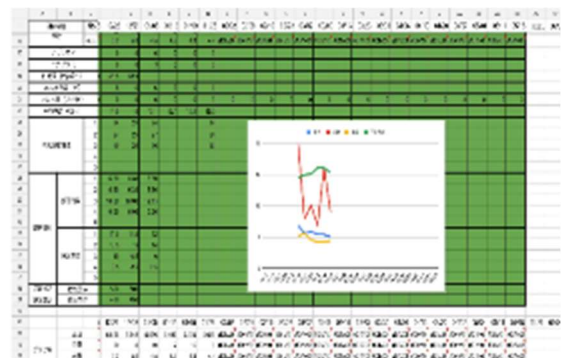
定例会では、生産者の考えを聞き出し、生産者同士で議論を深め、「考える組織」へ導くため、ファシリテーターに徹した。クラウド上でリアルタイムでデータ共有できることを活かし、進捗状況を確認しながら課題解決に向けた取組みについて、生産者同士で議論できるよう支援した。

4 活動の成果

ナス若手生産者5名において前作の栽培上の問題と原因が整理され、目標が明確となり、解決策を設定することができた。また、設定した課題について、本年策において解決に向けた取組みが行われている。



スプレッドシートで共有されたデータを用いた検討会



スプレッドシートのデータ共有画面